

このたびは『重要度別ファイナルチェック 言語聴覚士試験受験対「実戦」講座 2007～08年版』
をご購入いただきまして誠にありがとうございます。

以下に誤りがありましたので、ここに訂正をさせていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

2009年2月現在

訂正箇所

61頁上から2～18行目 行のズレ

正しい内容

2. 周波数レスポンス**

周波数レスポンスの測定は、60 dB SPL の純音を入力して出力を測定する。

a. “規準の状態”とは

マイクロホン入力，音質調整器（周波数特性の調整）N，出力制限装置（スイッチ）off。

b. 規準利得とは

利得調整器を規準周波数（1600 Hz）で，60 dB SPL 入力時の出力が，最大出力より 15 dB 小さくなる位置とした場合の利得をいう。

c. 補聴器の種類

箱形，耳かけ形，挿耳形が代表的。それぞれの特徴を表6-2にまとめた。

3. 補聴器のフィッティング**

a. 最大出力音圧レベル

平均聴力レベルが 70 dB HL 以内では最大出力音圧レベルの上限は 110 dB SPL，80 dB HL 以内では，最大出力音圧レベルの上限は 120 dB SPL，95 dB HL では 130 dB SPL は必要。ただし，130 dB SPL の出力が難聴を進行させる場合もある。

b. 補聴器装用効果の評価と指導

最高語音明瞭度が 50% 以下の患者では，補聴器だけで会話を理解することには無理がある。